

令和5年度「全国学力・学習状況調査」の結果 —分析から見てきた成果・課題と今後の取組について—

区 名 住之江区

学 校 名 南港桜小学校

学校長名 高岡 繁樹

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和5年4月18日（火）に、6年生を対象として、「教科（国語・算数）に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査内容

(1) 教科に関する調査

- ・国語
- ・算数

(2) 質問紙調査

- ・児童に対する調査
- ・学校に対する調査

3 調査の対象

- ・国・公・私立学校の小学校第6学年の原則として全児童
- ・学校では、第6学年 97名

令和5年度「全国学力・学習状況調査」結果の概要

- ・全国平均と本校との平均正答率、平均無解答率のポイント差は、以下のとおりであった。

○国語	平均正答率・・・	+4.8	平均無解答率・・・	-2.9
○算数	平均正答率・・・	+4.5	平均無解答率・・・	-1.8

・平均正答率では、国語・算数とも全国平均を上回った。特に算数においては、昨年度は全国平均よりも1.2ポイント下回っていたことと比較し、大きな伸びがみられた。平均無解答率においても、昨年度の全国平均との差が国語において-2.0、算数において-0.6であったことから、両教科ともさらに減少する結果であった。

分析から見えてきた成果・課題

教科に関する調査より

〔国語〕

・すべての内容において全国平均を上回る結果であった。特に(2)情報の扱い方に関する事項とB「書くこと」の項目においては全国平均を大きく上回ることができた。B「書くこと」においては、昨年度全国平均より5.7ポイント低かったことから考えると、日常的に学習活動の中で自分の思いや考えを文章で表現する活動を継続してきた成果が表れてきていると考えられる。

〔算数〕

・昨年度は平均正答率の全国との比較において1.2ポイント下回る結果であったが、今年度は4.5ポイント上回ることができた。それに伴い、すべての領域において全国平均を上回る結果を得ることができた。研究教科を算数とし、学力向上指導員による実践的指導を受けながら授業改善を行ってきた成果が着実に表れていると考える。正答率の2極化傾向がみられるため、基礎的・基本的な学習内容の定着とともに、既習内容をもとにした活用する力を高めるための取り組みを、継続して進めていくことが今後の課題である。

質問紙調査より

「学校に行くのは楽しいですか」の質問に対しての肯定的な回答が8.4ポイント、「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思いますか」では7.1ポイント全国平均よりも上回っている。また、「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できる」の質問に対しては、肯定的回答が全国平均を18.8ポイントも上回っている。このことより児童は、概ね満足感をもちながら、良好な関係のもとで安心して学校生活をおくれていることがうかがえる。「自分には、よいところがあると思いますか」の質問では、肯定的回答の割合が全国平均とほぼ同じであり、「将来の夢や目標を持っていますか」では、1.6ポイント下回っている。本校児童の課題として、自己肯定感を高めながら、将来像の具体的なイメージをもつことがあげられる。

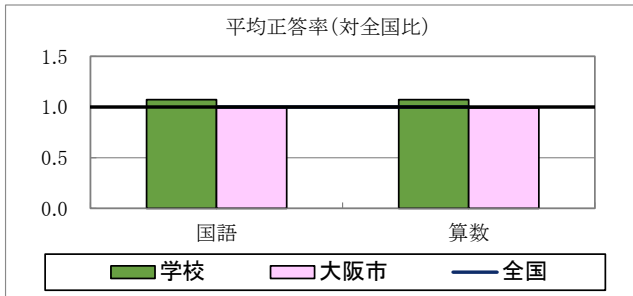
今後の取組(アクションプラン)

- ・「誰一人取り残さない学力の向上」において、コグトレを用いて基礎的・基本的学習内容の定着を図る。特に基礎的計算能力の向上を目指す。
- ・サポーター等を活用し、個の課題に応じたきめ細かな支援体制の一層の充実を図っていく。
- ・児童自らが課題意識をもち、自分の考えを進んで表現しようとする態度の更なる育成のための指導法や各種取り組み内容の工夫を継続して行う。
- ・本校の課題のひとつである学校以外での学習時間の確保に向け、家庭での学習課題やICT機器の活用の工夫に継続して取り組む。
- ・キャリア教育の充実を図るため、各学年で外部講師による発達段階に応じた出前授業などを積極的に取り入れる。

【 全体の概要 】

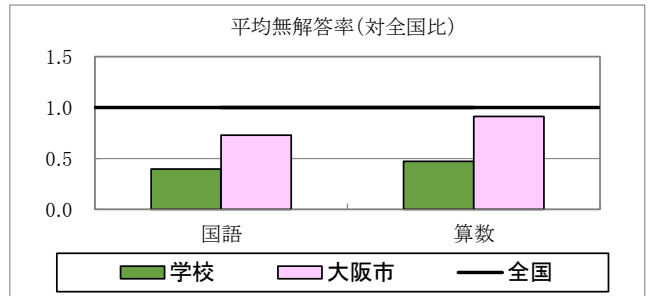
平均正答率 (%)

	国語	算数
学校	72	67
大阪市	67	62
全国	67.2	62.5



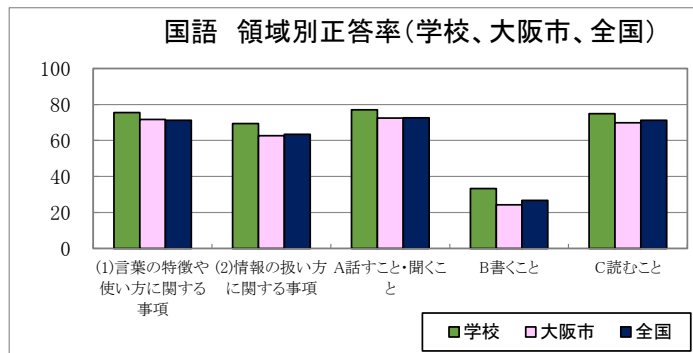
平均無解答率 (%)

	国語	算数
学校	1.9	1.6
大阪市	3.5	3.1
全国	4.8	3.4



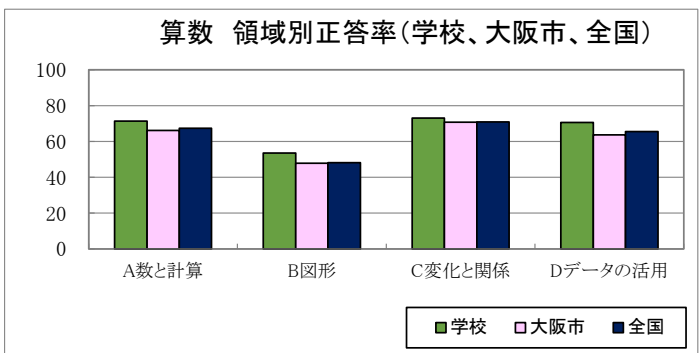
【 国 語 】

学習指導要領 の内容	対象 設問数 (問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
(1)言葉の特徴や使 い方に関する事項	5	75.5	71.7	71.2
(2)情報の扱い方 に関する事項	2	69.4	62.6	63.4
(3)我が国の言語 文化に関する事項	0			
A 話すこと・聞くこと	3	77.1	72.4	72.6
B 書くこと	1	33.3	24.2	26.7
C 読むこと	3	74.9	69.9	71.2

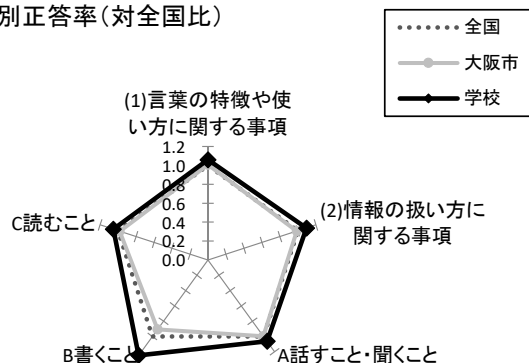


【 算 数 】

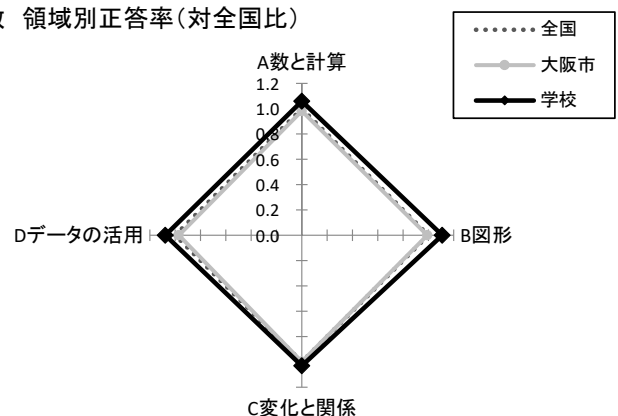
学習指導要領 の領域	対象 設問数 (問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
A 数と計算	6	71.3	66.1	67.3
B 図形	4	53.5	47.8	48.2
C 測定	0			
C 変化と関係	4	73.1	70.8	70.9
D データの活用	3	70.6	63.6	65.5



国語 領域別正答率(対全国比)



算数 領域別正答率(対全国比)



児童質問紙より

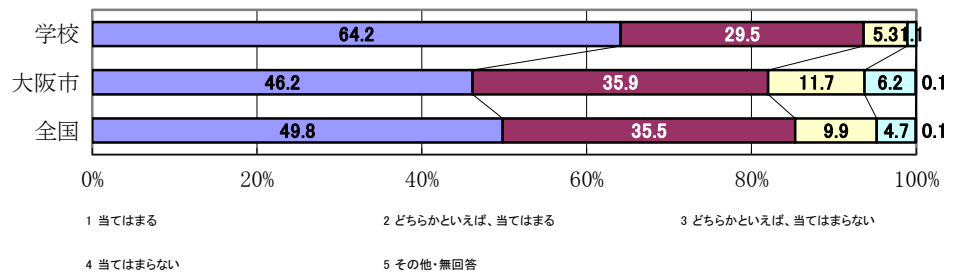
1 2 3 4 5 6 7 8

質問番号

質問事項

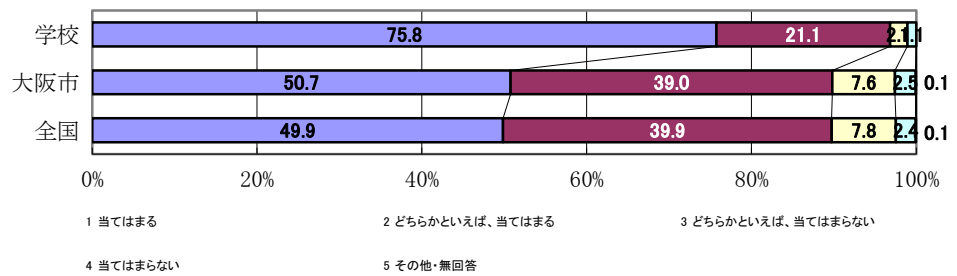
12

学校に行くのは楽しいと思う



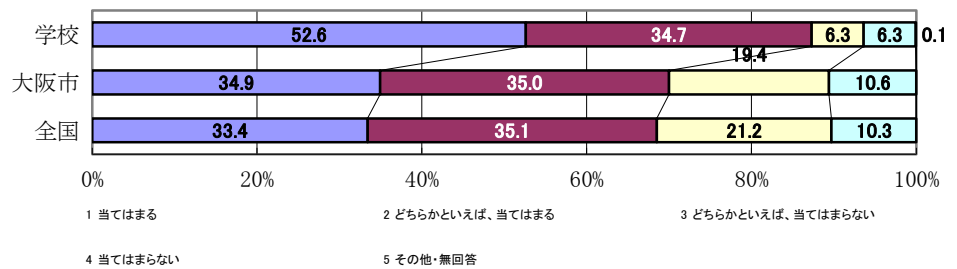
5

先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思う



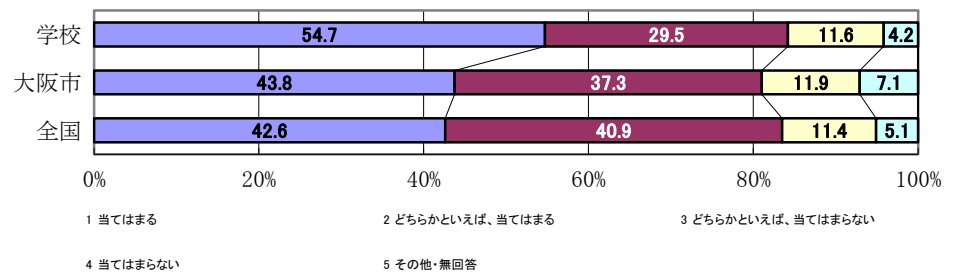
10

困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できる



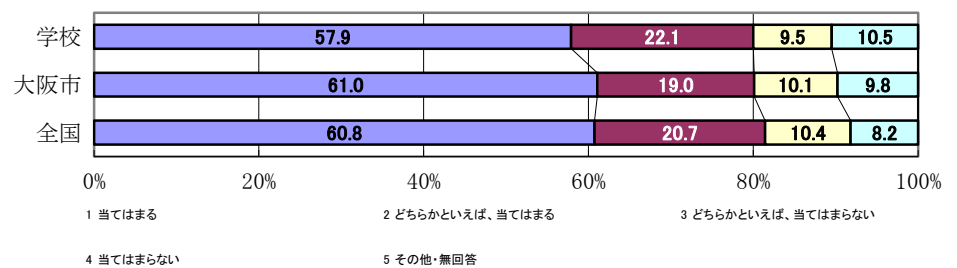
4

自分には、よいところがあると思う



7

将来の夢や目標を持っている



学校質問紙より

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10

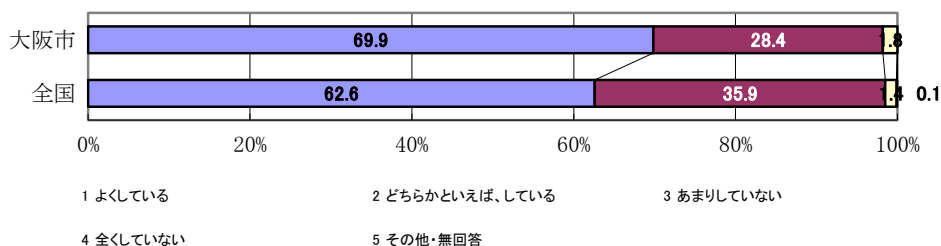
質問番号

質問事項

22

授業研究や事例研究等、実践的な研修を行っている

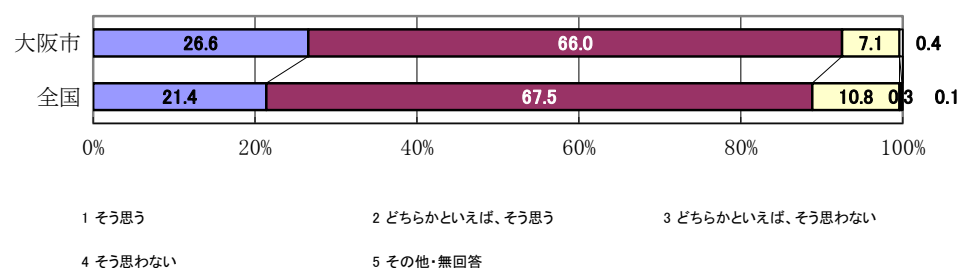
学校 「よくしている」を選択



26

調査対象学年の児童は、授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができる

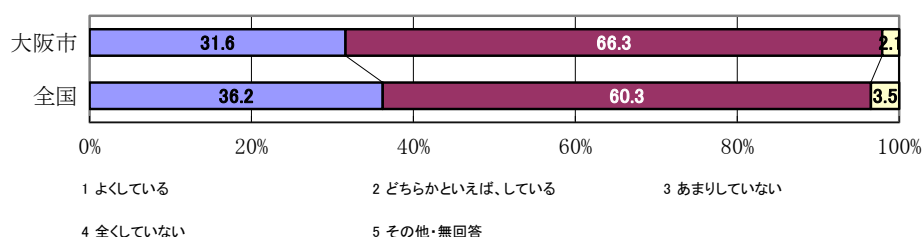
学校 「そう思う」を選択



40

調査対象学年の児童に対して、特別の教科道徳において、取り上げる題材を児童自らが自分自身の問題として捉え、考え、話し合うような指導の工夫をしている

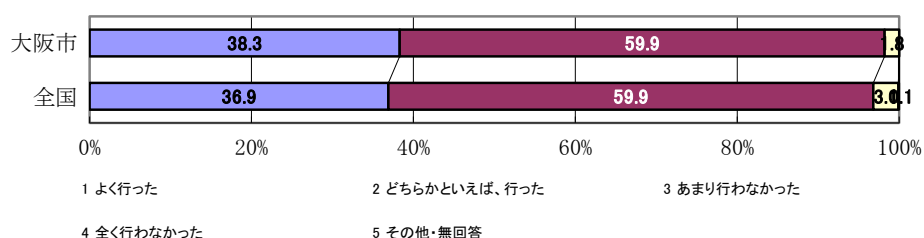
学校 「どちらかといえば、している」を選択



45

調査対象学年の児童に対する国語の指導授業において、前年度までに、登場人物の人物像や物語の全体像を具体的に想像し、表現の効果を考えて読むことができるような指導をどの程度行いましたか。

学校 「よく行った」を選択



48

調査対象である第6学年の児童に対する算数の授業において、前年度までに、公式やきまり、計算の仕方等を指導するとき、児童がそのわけを理解できるように工夫していた

学校 「どちらかといえば、行った」を選択

